



鷹栖町に移住したヒト 04

菅野 智史さん  
恵子さん  
真希くん  
洗希くん

智史さんは東京都出身、恵子さんは新潟県出身。毎年、夏と冬に旅行に訪れるほどの北海道好きで、2018年春、念願叶って鷹栖町へ移住した。家族で北海道のあちこちへ行ってみたいそう、楽しみにしているのはスキー。300坪の畑のある家に暮らしている。

ついに移住の念願叶う  
思いきりの良さが大切



1年目の広い家庭菜園には挑戦だと思ってたくさん作物を植えたという。ナス、ピーマン、キュウリ、トウモロコシ、落花生、さつまいも、ししとう、メロン…。「ひとつくらいは上手くできるといいかな」と恵子さん。

んだが「鷹栖町って聞いたことはあるけれど、どんなまちだろう?」とよくわからないまま着席。話を聞いているうちに病院が多い旭川に接していることがわかり、子育て世帯の暮らしやすさや、町の教育環境も魅力的に感じられたという。6月に相談会に行った後、7月には鷹栖町で行われた就農体験ツアーに智史さんが参加。5日間、4軒の農家に世話になり、野菜の追肥などの農業体験や意見交換を行った。智史さんは「鷹栖はいいところだ!」とすぐさま家族に伝えて、8月の夏休みを利用して、再度、家族全員で鷹栖を訪れ

たという。相談会からたったの3ヵ月。菅野家は鷹栖への移住の決心を固めた。住まいの決断も早かった。役場の職員を通じて紹介されたのは、郊外にある元農家の自宅。300坪の畑を有する「農地付空き家」という変わった物件だった。菅野家はなんと写真だけで購入を即決。元々、道内の物件を何軒も見てきた菅野さんにとって、住宅の良さも周辺の環境も「理想に近い」とピンときたそう。何より「また何かひとつ駄目となると、何年も後になってしまふ」という思いが恵子さんにはあった。実際に越してきて、築40年近くとは

思えないほど綺麗に保たれており、納得のいく住まいだった。

智史さんは東京での仕事があるため、まずは恵子さんと子どもたちだけが鷹栖町で暮らしている。生活を始めてまだ数ヵ月だが、地域にもすでに馴染んでいる様子だ。大きいのは真希くんの存在。真希くんは春から小学3年生で、スクールバスを使って鷹栖小学校に通っている。同級生は15名。そのうち2名が近所に住んでいるという。

「友達ができるか心配でしたが、近くに2人も同級生がいて、遊びに行ったり、遊びに来てくれたりもしますね」と恵子さん。真希くんは田舎暮らしも満喫しているようで、学校から帰るとランドセルを放り投げて一目散に畑に向かうという。そういえば真希くんは

これまでに北海道移住を果たしたたくさんの人に話を聞いてきたが、共通するのは「えいやつ」という思いきりの良さ。逆に、何かひとつでもハードルを感じてしまうと決断できないようだ。2018年4月に東京から鷹栖町へ移住した菅野さん一家もそうである。

新潟県の比較的雪の少ない地域で生まれ育った菅野恵子さん。智史さんとの結婚を機に東京で暮らすことに。恵子さんは20年ほど前に初めて旅行で訪れたときから北海道のファンで、以来毎年夏と冬に家族で訪れていた。北海道への憧れは年々強まっていき、次第に本気で移住を検討するようになったそう。移住先として最初に思い浮かべたのは富良野や美瑛の景色。長男の真希くんが小学校に入るタイミングに合わせて準備し、お試し暮らしをするなど検討を重ねたが、望んでいた中古住宅が見つからず、子育て環境や病院に不安を感じたことから、この年は断念した。「このまま東京にいいのか?」と半ば諦めて弱気になっていたという。それでも東京で開催された「本気の移住相談会」に足を運ぶと、偶然空いた鷹栖町のブースに座ることとなる。運命の出合いだった。

北海道に毎年旅行で来ていた菅野さ

取材中もずっと家庭菜園の手入れをしていた。草取りをする姿は「本当に小学3年生?」と思うほど貫禄があり、軍手を真っ黒にして、真剣にじつと畑に向き合う姿が印象に残っている。恵子さんは、真希くんの友達のお母さんたちと仲良くなり、コミュニティを広げつつあるとか。移住者が地域に馴染むキーパーソンとなるのは、やっぱり子ども。菅野さんは順調なスタートを切っていた。

年末には智史さんが完全移住を予定している。晴れて家族全員が鷹栖で暮らすわけだが、目の前には冬が待ち構えている。季節を一周するまでは毎日が未体験ゾーンだ。楽しいことも、苦労もあるだろう。1年後、また菅野家の話を聞きに行きたいと思った。



子育て支援センターに行ったりして情報を得ている恵子さん。自宅は旭川のスーパーや病院まで車で20分ほどの場所にあり、不便は感じていないという。